

令和3年度第1回上天草市総合教育会議 会議録

開催日時	令和3年7月6日（火） 10時～11時50分
開催場所	上天草市役所松島庁舎 3階大会議室
出席委員の氏名	市長 堀江 隆臣 副市長 村田 一安 教育長 高倉 利孝 教育委員 山下 勝一 教育委員 濱崎 千賀子 教育委員 辻本 幸之助 教育委員 岩崎 宏保
欠席委員	無し
事務局及び関係者氏名 (委員を除く)	教育部長 山下 正 学務課長 赤瀬 耕作 学務課教育審議員 松田 真也 学務課長補佐 川本 宜史 学務課指導主事 瀬戸口 弥生 学務課教育企画係長 入口 紘光 学務課学務係長 渡辺 龍也 学務課施設係長 松本 浩平 社会教育課長 濱岡 祐功 社会教育課長補佐 小浦 嘉彦 社会教育課生涯学習係長 松下 伊津子 社会教育課スポーツ推進係長 浮瀧 信五 総務部長 宇藤 竜一 総務課長 濱崎 裕慈
傍聴人の数	0人

1 開会

○**山下教育部長** 只今から、令和3年度第1回上天草市総合教育会議を開催いたします。始めに本日の会議の主催者であります、堀江市長から挨拶を申し上げます。

2 市長挨拶

○**堀江市長** 本日はお忙しい中、令和3年度第1回上天草市総合教育会議にご出席いただき、ありがとうございます。また、委員の皆さまには、日頃から本市の教育行政はもとより、市行政全般にわたり、ご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。本日は、昭和47年に発生した水害が49年前に発生した日ということで、早いもので約50年の月日が流れるということになりました。今年は梅雨入りが早かったですが、その後は雨が降らない状況が続いておりまして、梅雨明けに大量の雨が降るのではないかとという心配をしておりますが、各地域においても市民の皆様のご協力をいただきながら防災に努めて参りたいと考えております。さて、新型コロナウイルス感染症については、現在も影響が続いているところですが、熊本県や本市においては、一時期に比べると落ち着いた状況になってきています。ただ、首都圏等の状況を見ると、感染者が拡大傾向にあるし、東京オリンピック・パラリンピックも開催するということが、不安な状況であります。本市では医療従事者の協力もあり、ワクチン接種を希望される方も多いことから、想定以上にワクチン接種は進んでいます。また、7月中には高齢者のワクチン接種を完了する予定としておりますし、引き続き64歳以下のワクチン接種も推進して参りたいと考えているところです。先日は、教職員組合から教職員の先生方にワクチンの優先接種についての要望がありました。7月中旬以降のワクチン供給が確定していませんので、具体的な事は申し上げられないが、環境を整えば教職員の先生にもいち早くワクチンの接種をしていただきたいと思いますと考えていますので、実現できるように努力をしていきたいと考えています。この総合教育会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、全ての地方公共団体に設置が義務づけられているものであり、地方公共団体の長と教育委員会が連携して教育行政の推進を図ることを目的に開催されるものです。年に2回の開催を予定しており、大変貴重な機会でございますし、忌憚のないご意見を頂戴し、我々も行政として教育に力を尽くして参りたいと考えていますので、本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

3 会議公開協議

○**山下教育部長** 会議の開催にあたり、上天草市総合教育会議運営要綱の規定に基づきまして、会議の公開について、ご協議させていただきます。本日の会議は、設置要綱第6条ただし書で定める非公開とすべき議事であり「個人の秘密を保つため必要があると認められる場合」又は「会議の公正が害されるおそれがあると認められる場合」に該当せず、会議を公開してよろしいかお伺いします。

<「異議なし」との声あり。>

○**山下教育部長** ご異議がないようですので、本日の会議は公開とさせていただきます。それでは、議題に入らせていただきます。これ以降の進行については、運営要綱第4条に基づきまして、堀江市長に進行をお願いいたします。

4 議題

(1) 英語教育の推進について

○堀江市長 それでは、議題「英語教育の推進について」事務局から説明をお願いします。

○松田教育審議員 それでは、英語教育の推進について説明をさせていただきます。まずは、(1)本市の英語教育の現状と課題についてです。前の学習指導要領では、小学校高学年に外国語活動が導入され、「話す・聞く」の活動が中心でした。しかし、様々な課題もありまして、現在の新しい学習指導要領では、5つの領域（「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り・発表）」「書くこと」）ごとに目標を設定し、5つの領域ともに学習することになりまして、小学校3・4年生で外国語活動、小学校5・6年生が外国語科という教科になりました。続きまして、(2)本市における外国語教育についてです。本市におきましては、市教育振興基本計画の英語教育のところで、生きる力をはぐくむ学校教育の充実、グローバル化に対応した教育を推進するというところで、施策として時代の変化や教育のニーズに対応した教育の推進としまして、児童生徒の英語力の水準及び英語学習に対する意識・意欲の向上を図ることとして取り組んでいます。具体的な取組内容ですが、授業につきましては、小学校1・2年生におきましても、E-Friends-School という市独自の事業として、ALTの先生に年間15時間の授業をいただいています。小学校3・4年生が外国語活動で年間35時間（週1時間程度）。小学校5・6年生が教科として外国語科で年間70時間（週2時間程度）。中学生は今までのとおり外国語科（英語科）ですが、年間140時間（週4時間程度）の授業を行っています。それに加えて、ALTの先生に授業のサポートをいただいています。次に、英語検定試験受験の推進にも取り組んでいます。中学生を対象に英語検定の検定料を補助（補助率：検定料の1/3）することにより、受験機会を増やし、目標を持って英語の学習に取り組むことができるような環境を整えています。次に、基礎学力の向上としまして、市内全校で実施しています基礎学力アップテストにつきましても、中学生の英語の問題を作成し、年2回の機会を設け取り組んでいます。中学校は教科書が新しくなったので問題の作り直しをいただいているところで、基本的には9月と1月に実施する予定です。その前に、取組期間、勉強期間を設けています。それから、ICTを活用した英語教育です。1人1台のタブレット端末や各学校に配置していますICT機器等を活用しまして、授業や個別の学習で発音の練習等の学習を行っています。また、家庭学習においてもICT機器の活用ができるように取組を進めているところです。続いて、(3)全国（県）学力・学習状況調査の結果についてです。別紙資料に標準学力検査（NRT）の中学2年生と中学3年生の英語の結果を掲載しています。中学2年生の過去3年間で比較しますと、この検査は毎年4月に実施されていますが、少しずつですが結果が上昇してきています。ただし、標準値が50ですが、標準値には届いていないところです。中学3年生も同様です。現在の中学3年生の昨年度と今年度の結果だけを見ても、数値は昨年よりも下がっています。これは、コロナ禍の影響と本市の課題である春休みの家庭学習の取組が弱いということが影響しているものと思われます。次の指標は、毎年12月に実施しています県学力調査の英語の結果を掲載しています。中学1年生の結果としては、令和元年度と令和2年度を比較し、数値的には上昇していますが、どちらの年度も県平均には届いていません。中学2年生も同様の期間で比較すると、大きく上昇していますが、県平均に少し届かない結果となっています。現在の中学2年生の1年時と2年時を比較した場合、

数値的には伸びているものの、コロナ禍の影響等で下がっている県平均には、わずかに届いていない状況です。続いて、(4) 課題とその対応方針についてですが、課題を3つに絞ってお示ししています。まず、課題1は、コロナウイルスの影響によりALTの確保が困難ということについてです。コロナウイルスの影響により本市で外国語(英語)の授業をサポートしているALTの確保が困難になっているということです。今現在5名いるALTですが、8月に帰国等で3名が退職し、2名になってしまうため、不足するALTの派遣を国のJETプログラムによりお願いしており、2名の派遣予定者は決定していますが、コロナウイルスの影響により入国ができず派遣時期がはっきりしないというのが現状です。そこで対応として、英語の学習支援員を雇用し、英語専科の教職員が配置されていない小学校を中心に支援に入るといふことと、民間のALTの活用といふことで、国のJETプログラムによるALTの派遣が望めない場合は、民間事業者によるALTを導入し対応するといふものです。次に、課題2は、英語検定受験率の向上についてです。本市では、英語検定チャレンジ事業補助金制度を創設し、英語検定受験の促進により英語力の水準や英語学習意欲の向上に取り組んでいますが、英語検定の受験率が伸びていません。県では中学3年生までに英語検定3級を取得するといふ目標を掲げていることから、これまでは英語検定チャレンジ事業補助金の対象を中学3年生としていましたが、今年度から中学1・2年生も助成対象としていることから、昨年及び一昨年度よりも英語検定の受験率は向上すると思われまふ。対応としまして、英語検定のプレテストである英検IBAを市内全ての小学6年生から中学3年生まで受験をしていますので、この結果を効果的に活用して、一般の英語検定でどのくらいのレベルにあるのか確認できるので、自信をもって英語検定受験につなげていこうといふものです。続いての対応としては、先程説明しましたが、英語検定チャレンジ事業補助金の助成対象者の見直しです。今までは中学3年生で英語検定3級を目標にしていますが、中学3年生でいきなり英検3級だけを受験しても合格率も上がっていきません。そこで、段階的に中学1年生で英語検定5級、中学2年生で英語検定4級に臨んでもらえるよう、中学1・2年生も助成対象とするものです。次に、タブレット端末を使って英語検定の過去問にチャレンジするといふ取組です。英語検定主催者のホームページには英語検定の過去問等が掲載されていますので、タブレット端末を活用して個別学習として発音などの演習ができるようにすることを考えています。それから、既に説明しました基礎学力アップテストの問題に取り組むといふことです。次に、課題3は、小学校における学級担任の外国語指導力向上についてです。本市の小学校では外国語の授業している英語専科の教職員は1人おり、大矢野地区の4校で授業をしています。残りの学校には英語専科の教職員はいないといふことになりますので、学級担任が授業を行っています。このことによる外国語の理解力の格差等が懸念されているところ。そこで、外国語の授業を行っている学級担任の指導力の向上が求められています。対応としましては、学級担任への外国語授業の指導といふことで、今年度は英語の免許を持つ指導主事がありますので、授業を参観するなどし、指導力の向上に取り組んでいます。その他、教育事務所が主催する研修会等を活用しながら指導力の向上を目指しています。さらに、外国語の指導ができる教育指導員が雇用できれば、ALTと授業をする先生方とのコーディネートや研修会を通じて教職員の外国語の指導力を向上できると考えています。最後に、他自治体の取組を紹介しています。ベネッセ・コーポレーション等の企業が教材の提供や英語学習のコーディネートで自治体とコラボレーションする

事例等もあります。説明は以上です。

○堀江市長 それでは、只今の説明についてご質問やご意見はございますか。

○村田副市長 1点目は、外国語の学習意欲が低下する具体的な原因があれば教えていただきたい。

2点目は、英語検定試験の受験率が低いということでしたが、原因と対策を教えていただきたい。

3点目は、学力検査の結果が県平均よりも低いということについて、コロナによる学校の休業等が原因ということでしたが、コロナ以外で考えられる原因があれば教えていただきたい。

○赤瀬学務課長 1点目のご質問については、旧学習指導要領における小学校での外国語活動では、聞くこと、話すことの中で、英語によるやり取りや発表を中心に外国語に慣れ親しませることで学習意欲を高めるという考えです。中学校では教科となったことで、聞くこと、話すことに加え、読むこと、書くことが加わったことで、小学校から中学校への移行段階で学習についていけない生徒がでてくるといったことが学習意欲の低下の原因として考えられます。

○松田教育審議員 2点目のご質問でありました英語検定の受験率が低いことについての要因ですが、英語検定試験は金曜日の放課後や土曜日に学校を使って行っています。検定料は、県と市から3分の1ずつ補助をしますので、各家庭の負担は少ないと思うのですが、英語検定3級になると2次試験に英会話の試験があり、2次試験の試験会場は天草地域では天草高校の1会場となりますので、保護者に会場まで送迎してもらう必要があります。このことで各家庭の負担が増えますので、英語検定を受験に対するハードルが高くなっているのではないかと考えています。3点目の学力検査の結果についてですが、標準学力検査は毎年4月に実施をしています。標準学力検査前の3月末及び春休みの家庭学習等の取組ができず、県平均よりも低い結果となっていると考えていますが、県学力状況調査は毎年12月に実施されますので、2学期の間に学校での継続的な指導ができることから、成果も上がっていると考えています。先生方の意見等から、家庭学習に問題があると考えており、授業と家庭学習のつなぎ方や家庭での学習の協力、春休みの子どもたちの学習に対する意識を高めることを課題として分析しているところです。子どもたちが春休み中も継続して学習を続けて新年度に臨めるように、教頭先生や教務主任の先生方に春休みの課題の出し方等をお願いしております。今後も検討をしていくこととしています。

○村田副市長 ありがとうございます。

○堀江市長 他にございませんか。

○岩崎教育委員 事前に本市の教育大綱と教育振興基本計画を見させていただきましたが、基本理念として「ふるさとに誇りを持ち未来を切り拓く人づくり」が掲げられており、この中で、外国語教育が取り上げられていますが、外国語教育の優先度の位置付けはどのように捉えていらっしゃいますか。優先順位が高いのであれば、社会教育も含め総合的に進めていく必要があると思います。外国語教育に対する思いをお聞かせいただければと思います。

○高倉教育長 本市において外国語教育の優先順位は高いものと考えておりまして、社会教育においても国際文化体験活動講師として英語を母国語とするティム先生を任用し、保育園等で国際文化体験活動等を実施していただいたり、ALTに小学校1・2年生に外国語活動を実施していただいたり、他の自治体にはない本市独自の取組を行っているところです。また、先程の話で、小学校から中学校への接続が不十分ということについては、小学校5・6年生で外国語が教科になったわけ

ですが、先生は英語の免許は持っていらっしやらない。ところが、中学校の場合は、英語専科の先生が指導しますので、そういったところが小学校から中学校への接続がうまくいっていない要因ではないかと懸念しているところです。これからは、小学校の先生と中学校の英語専科の先生が共同で研修等をして、スムーズな移行ができるようにすることが必要だと考えています。本市の中学校の英語の成績は他市と比較すると低いことから、底上げをするため、本年度、英語専科の指導主事を入れて、先生方の英語の指導力を上げる取組をしていることも対策の1つです。あと、英検の受験率が低いということに関連しまして、天草では英検3級の2次試験は天草高校まで送ってもらって受験する必要があるが、熊本市内の生徒は近くの受験会場に自分たちで移動して受験できるというような地理的要件も原因の1つであります。令和2年度の本市中学校3年生の英検3級取得者は20人で全体の10%、ところが県の平均は26.6%ということで、県平均を大きく下回っている。熊本県は、本年度の目標として中学3年生の英検3級の取得率を33%と設定しており、これは現在の本市の実績の3倍の数値目標を目指して努力していかなければならないということであるが、これは郡部の市町村も同じ状況ではないかと思えます。このように、英語検定試験の受験環境の差がある状況において、外国語教育が進められているところです。今のような回答でよろしかったでしょうか。

○岩崎教育委員 はい。

○堀江市長 今後もグローバル社会が進んでいくうえで、英語の重要性はこれからも高まっていくと思います。上天草市内では国際交流というか外国の方と接する機会が少ないですが、今後は増えていくと思うし、そのような地域、社会になっていくのではないかと思います。そういう意味では、英語を推進するのは重要だと考えていますが、私が英語を勉強していた時代と現在は違うので当てはまるかどうかかわからないですが、我々の時代は都市部と地方との教育環境の差を感じていました。都市部の学校で使っていた英語の教科書と我々が使っていた教科書ではレベルが違っていました。高校に進学した時に、英語の授業で私が習っていない単語を使った授業が行われており、スタートの段階から差があったことにショックを受けたことを覚えています。今は学習の在り方が変わっていると思うが、地域によって学習環境に差がある事は問題だと考えています。ある地域が英語教育に関して良い環境であるのであれば、私たちもそこに近いレベルまでの環境にしてあげたいという気持ちは強いですが、熊本県の中で、英語教育に力を入れている地域はありますか。

○瀬戸口指導主事 英語学習の環境が整っているのは、英語に触れる機会が多く、個別でも英語の学習に取り組めるといったことで、熊本市だと思います。今年度から英語の教科書が変わりましたが、上天草市ではこれまでニューホライズンという教科書を使っていましたが、改定により内容が難しくなったので、上天草の子どもたちには合わないだろうということで、小学校で使っていた教科書を発展させた内容の教科書を選定しました。子どもたちからは、使いやすく、わかりやすいといった意見がありました。

○堀江市長 教育水準は1年や2年で変わるものではなく、ある程度の期間で上がっていくものだと思いますので、1つ1つ丁寧に改善していく必要があると考えています。英検の試験に天草市まで連れて行くことが家庭の負担になっていて英検受験率が伸びていないのであれば、送迎バスを導入してでも受験する機会を確保することは必要な取組ではないかと思えます。

○**岩崎教育委員** 市教育振興基本計画においても、外国語教育の推進について記載がありますが、教育長がおっしゃられたとおり、本市の児童生徒の英語力の水準及び英語学習に対する意識・意欲が十分ではないということで、これを改善するために、指導体制の強化や英検の受験を進めていらっしゃるということでした。現状のところ、英語学習に対する意識・意欲については、低学年から高学年になるにつれて意識・意欲が下がっていくといったことがデータとしてありますが、何で子どもたちが「英語が好き」という意識にならないのかなといった分析はしていらっしゃいますか。何で英語が嫌いになったのかといったことを明らかにすれば、対策のヒントになるものがあると思います。それから、英検受験についてですが、英検受験・取得が目的化してしまうことを心配しています。英検のための準備のテストや宿題で過去問に取り組むなどで英語嫌いを作ってしまうことが懸念される場所ですので、そのあたりの配慮も必要ではないかと考えます。

○**堀江市長** 英語の楽しさ、おもしろさを分析したことはありますか。

○**赤瀬学務課長** そのような分析をしたことはないと思います。

○**堀江市長** 本来、外国語というのは会話やコミュニケーションがとれるようになると楽しいものであると思いますし、そういう英語の楽しさに気付いていない児童生徒も多いと思います。

○**高倉教育長** 現場の方の状況はどうでしょうか。

○**瀬戸口指導主事** 英語の教師をしてきて感じることは、「どうせ英語は使わんもん」という今習っていることは将来使わないということを書いていた生徒の言葉にショックを受けました。本市では、未就学児のころから英語に慣れ親しむといったことから E-Friends School 事業を行っており、子どもたちにとって英語に慣れ親しむという入口には立っていると思うのですが、学年が上がるにつれて、覚えるという作業になった時に、早く伝えたい、相手が伝えたいことを読んで伝えたいといった意欲につなげるための手立てが不十分ではないかと思っています。英語は積み重ねの教科ですので、書いて記憶に残すという作業も必要ですが、記憶に残す作業は授業だけでは成果がでませんので家庭学習とのリンクが必要と考えています。

○**高倉教育長** 付け加えて説明しますと、小学5・6年にも教科として外国語が導入されるなど、取組の変化が進み、小学校では特に不安を感じています。小学校の先生は英語の資格がないのに授業で英語の指導をしなくてははいけない。小学校で英語専科の先生はたった1人で、大矢野町の4校を担当しているだけです。英語専科の先生をもっと入れたいと思うのですが、県の方でも採用できないということで、国や県は現場が困っている状況を把握いただいたうえで、対応していただきたいと思っています。そのような中で、教師の指導力の向上に努め、子どもたちが英語の時間が楽しくて待ち遠しいと思えるような授業が展開できるように、これから頑張っていかなければいけないと思います。

○**堀江市長** 先程、英検受験が目的化していないかといった話がありましたが、英検受験だけに力を入れては弊害がでてくる可能性がありますよね。

○**高倉教育長** はい。

○**堀江市長** 他の教科も重要ですので、取り組み方のバランスが大事になってくると思います。

○**高倉教育長** 県は、中学3年生での英検3級の取得目標を33%としていますが、この33%に達している自治体名を公表していいかといった話をされている。県としても、目標達成のために市に

英検の受験機会を増やす取組を推進させるように動いていると思います。

○**山下教育委員** 大学入試では英検2級を取得した場合は、英語の試験を免除するといったことがあったと思いますが、英検3級を取得すれば高校入試のときに英語の試験を免除するようなことにでもなれば、英検受験のモチベーションも高くなると思うのですが、英検3級を受験することに何かしらのモチベーションを持たせないと簡単には受験しないだろうと思っています。私の子も高校で英検2級は受けましたが、中学校で3級は受けませんでした。中学校で単に英検3級を受けただけなら、受けない生徒もでてくると思います。それと、小学校1・2年生のE-Friends Schoolは年15時間ということで、大変いい事業なので、もう少し授業数を増やしていただければ、英語の楽しさをもっと伝えられると思いますし、1・2年生は読む・書くというより、コミュニケーションの授業でいいと思います。先程、ALTの確保が難しいという話もありましたが、E-Friends Schoolで遊びながら英語に触れる時間をもっと増やすことができれば良いと思います。楽しい英語が勉強になってくると英語に対する興味が下がってくるのは仕方ないと思いますが、良い事業なので継続していただきたいです。

○**堀江市長** ありがとうございます。英語を学校で学ぶというのは時間的に限られてくると思いますが、学校以外で英語を使った活動があればいいと思います。例えば、ティム先生が保育園を中心に活動されていると思いますが、特に小学校低学年の子どもたちに英会話の楽しさとか英語に関心がもてるような取組があると変わってくるのかなと思います。これまでも、そういうイメージで様々な取組を行ってきたと思うんですが、長続きしていないというか、定着していないのが現状なんですよ。

○**山下教育委員** 以前、白嶽キャンプ場で英会話をしながらハンバーガー作りをするイベントに参加したことがあります。ああいう取組もいいなあと思いました。

○**高倉教育長** 英語村でしょ。

○**山下教育委員** はい、英語村とかですね。

○**高倉教育長** 社会教育課で行っているティム先生の取組を紹介していただいていいですか。

○**小浦社会教育課長補佐** ティム先生は、保育園を回って英単語を教えたりするほか、料理教室をしながら英会話をしたり、サマーアクティビティということで、夏休みに子どもたちを対象に工作づくりを通して英会話を楽しむような取組を行っています。

○**堀江市長** そういった機会を増やせたらという思いはあるんですが、英語を指導する人材がいないという問題もおそらくあると思います。ALTもコロナの影響で入国が困難になって、確保ができないという状態になっています。そこで、教育支援員を増やして対応するための予算は確保しているのですが、その支援員の方は決まっていないんですよ。

○**赤瀬学務課長** はい。

○**堀江市長** ALTの確保の問題については、1つの手段だけではなくて、複数の手段を検討することも必要だと思いますが、英語教育に関して言えば、是が非でもALTに代わる人材を探さないといけないんですよ。

○**赤瀬学務課長** 特に小学校5・6年生については、ALTの活用による授業の効果は高いと思っています。中学校は英語専科の先生がいらっしゃるので、なんとか対応できるんですが、先

程の話のとおり、小学校については英語専科の先生が1名しかいないということで支援が必要と思っています。また、ALTの確保については、現在は国のJETプログラムを活用しALTを確保しているところですが、これ以外にも国内にALTを派遣している会社もありますので、今後の動向を見ながら必要に応じて、必要な人員については、このような民間事業者に委託等をしてALTの配置をしたいと考えています。

- 堀江市長 ベネッセ・コーポレーションからALTを派遣してもらうことはできないんですか。
- 赤瀬学務課長 基本的に民間の人材派遣事業者がALTを派遣していますので、すぐに派遣が可能かどうかも含めて調査をしたいと思います。
- 堀江市長 他に、皆さんからございませんか。
- 岩崎教育委員 今日の資料にもあった課題3のところと関係があると思うのですが、指導体制の面が大きな課題だと思っています。ALTの人材確保が難しいということであれば、どういった方法を取っていくのかということを考えざるをえないと思います。幸い、英語専科の指導主事の先生も配置していただいていますし、教育指導員の先生もいらっしゃると思います。英語の免許が無くても、学び方や学ばせ方などの教授方法あたりは十分指導いただけるとしています。また、ICTを活用しながら進めることもできるのではないかと思います。それから、社会教育やコミュニティースクールも立ち上げてありますし、その中で、PTAやいろいろな関係団体も入っていると思うので、そういったところで、子どもたちにどういった場を提供してやるか、それと、地域学校共同活動の中でも取り組める活動があるのではないかと思います。先程教育長からもありましたが、直接指導に当たる担任の負担は非常に大きいと思います。英語免許所有者でなくても指導しなくてはならない。そこはそこでしっかり頑張っていただいていると思います。その場合、支援をする体制を市を挙げてできればいいのではないかと思います。
- 堀江市長 英語の免許を持っている先生の割合は低いんですか。
- 岩崎教育委員 なかなか人がいないんですよ。
- 堀江市長 退職された先生で、英語専科若しくは英語指導ができる方がいらっしゃるのであれば、学校とは別に英語に慣れ親しむ環境づくりができると思うのですが、そういう人材がいないというか、そういう人材に出会えないというのが現状ですね。
- 岩崎教育委員 学校の中では、理科専科や算数専科などありますので、来年度は、これから先、英語専科の配置をお願いしていただきながら、小規模校には英語専科の先生が何校かを回って対応いただくというように、少しずつ人材を充実させていくような形を取っていかれるのも1つの方法ではないかと思います。
- 堀江市長 そうですね。でも、結果的に、県の協力が必要になってくるということでしょう。
- 高倉教育長 そうです。今市内に欠員の先生が8人いるんですよ。その内2名は中学校の美術と国語の先生で、配置されていないんですよ。国語・算数・英語は専科を定めてよいとなっていますが、配置してないし、先生が足りていないんです。定員配置してあれば、その中で英語専科の先生を作って対応できると思います。実際は、英語の免許を持っている先生もいらっしゃいますが、担任してもらわないと先生が足りないというのが現状なんです。熊本市内などは郡部とは格差はありますけど。

○堀江市長 地方の現状を県の教育委員会も理解してもらえるように訴えていく必要はあると思いますが、それだけでは前に進んでいかないと思いますので、やれることを模索していく必要があると思います。英語教育の推進については様々なご意見があると思いますが、時間もありますので、この辺で区切りをつけたいと思いますが、よろしかったでしょうか。

<「はい」との声あり>

(2) 成人式について

○堀江市長 それでは再開したいと思います。議題(2)の成人式について事務局から説明をお願いします。

○濱岡社会教育課長 成人式の対象年齢変更の要否についてという資料をご覧ください。成人式とは、成人式を行う年度内に満20歳となる人々を各地方自治体が自主的に激励・祝福する行事とされています。本市の現状としましては、20歳になる学年を対象として、式典の企画・運営にしましては、対象者より募集した実行委員が担当をしています。その中で、来年の4月1日から成人年齢が18歳に引き下げられるということになりましたので、成人式の対象年齢を18歳とした場合、次のような課題がございます。1つ目は、大学等の入学試験直前となり、成人式に参加しにくい状況。次に、18歳から20歳の3学年を同時開催とした場合、参加者が増えることから感染症対策が困難。次に、3学年同時開催の場合は、世帯によっては兄弟がいたりすると経済的負担が増えるということが考えられます。最後に、18歳＝成人というイメージが定着しておらず実感が湧きにくい。ということから、社会教育課の方針としまして、現状通りで、成人式の参加対象者の年齢を20歳として式典を開催したいと考えています。次に、県内の各地の開催状況を記載しています。その中でほとんどが令和4年度以降の式典対象年齢を20歳としています。また、式典の名称については、成人式という言葉は使えませんので、どういったふうに式典を開催するかが今後の課題となってまいります。それから、成人年齢が18歳となることについては、本市として周知啓発を行なっていく必要があると考えています。以上でございます。

○堀江市長 それでは、今、事務局から説明がありましたように、来年4月1日から成人年齢が18歳になるということで、成人式の取扱いについて説明をいただいたんですが、ご質問やご意見はございませんか。

○村田副市長 資料に書いてありますが、令和4年以降の式典対象年齢ということで、ほとんど自治体が20歳となっていますが、今後も20歳とされるのでしょうか。

○濱岡社会教育課長 今後も20歳ということで聞いております。

○堀江市長 18歳で成人年齢になるということは、既に投票権はあるんですけど、恐らく法律上成年として適用されるのであれば、18歳の成人に達したときに、いわゆる社会人として権利と責任が生じるという部分の自覚を促す教育というものも必要じゃないかと思いますが、そのあたりは何か考えていらっしゃいますか。

○濱岡社会教育課長 ホームページや広報等で、早めに成人年齢が18歳に引き下げられるということに関してお知らせをするなどして制度をご理解いただいて、成人式を開催したいと考えています。

○堀江市長 18歳といえば高校生で、小中学校の教育でそういう18歳になったときの成人というのはこういうものだと思育するのはなかなか限界があるとは思っています。

○辻本教育委員 法律が変わって社会人としての責任を負っていくということを国も話はあると思うのですが、やっぱり市としても何かしらのメッセージじゃないですけど、発信があるといいと思います。

○堀江市長 実際は、小中学校での教育となるので、高校生と接する機会というのは少ないですね。

○高倉教育長 ただ、高校では選挙権が18歳で認められましたので、その選挙に関する教育は、特別に模擬選挙なんかを通して指導をしておられます。

○堀江市長 うちの場合は、上天草高校1校しかないの、上天草高校との意見交換をする中で、そういう話はしたいと思っています。投票権はもちろん自覚ある行動が必要だということは、どこかのタイミングで指導する必要があるのかなと思っています。成人式については、今年は中止ということになったのですが、状況が改善されると例年どおり成人式の開催ということになると思うので、それについては、これまでどおり20歳で式典を開催していくという結論にしたいと思いますが、それでよろしかったでしょうか。

<「はい」との声あり。>

4 その他

○堀江市長 それでは、以上で議題としては終わりましたが、その他について、まずは事務局から何かありますか。

○濱岡社会教育課長 社会教育課から2点報告がございます。まずは、新大矢野図書館及び天草四郎公園整備事業についてでございます。お手元にパース図をお配りしておりますが、これは、新図書館と天草四郎公園、天草四郎ミュージアムまで入れて作成しているものでございます。また、前方に設置しておりますのが模型でございます。これらの進捗状況についてご報告いたします。天草四郎公園及び法面補及び造成工事ということで、皆さんご存知のとおり工事を進めているところでございます。法面補強造成に関しましては、現在施工中の敷地の高低差等の工事をしており、今後は、法面補強のメイン工事に入りまして、法面の補強を行っていくこととなります。工期的には、この9月を予定しておりますが、5月の長雨等により若干の遅れが生じております。どうしても公園の土砂・土質の関係で雨が降ったら現場に入りにくいという状況がございますので、その中で今対応をとっております。続きまして、建設規模ということで説明いたします。パースを見ていただきますと、左側が図書館部分になります。木造平屋建てです。面積が660平米、右側が歴史資料室と共用部分、トイレ、会議室、その他諸々が鉄筋コンクリートの2階建てでございます。歴史資料館が422平米、共用スペースが648平米、全体で1,963平米、約595坪ということになります。今後の予定としましては、実施設計はほとんど完成しておりまして、9月議会に建設と工事管理の予算を計上予定であります。それから、順調に予算の確保ができればですが、入札期間に3カ月を要しまして、工事契約のための議会の議決が必要となりますが、工期は議会の承認をいただいた後の15カ月を予定しております。以上が、新大矢野図書館及び天草四郎公園整備事業の状況、今後の予定です。次に、東京オリンピック・パラリンピックについてでございます。大矢野町

出身の小幡真子さんが女子バレー日本代表に選出されましたので、横断幕、懸垂幕の掲示、または、パブリックビューイングの予定もしておりまして、大矢野総合体育館で小規模ながら30名程度を入れた中で、予選ラウンド5試合中3試合放送がございますので、その時に実施したいと考えております。また、東京パラリンピックの車いすフェンシング代表の龍ヶ岳町出身の藤田道宣さんについても、横断幕、懸垂幕の制作の準備に入っているところでございます。以上でございます。

○堀江市長 只今の説明について、ご質問やご意見はございますか。

○辻本教育委員 懸垂幕はどこに掲示されますか。

○濱岡社会教育課長 大矢野庁舎と松島庁舎です。

○辻本教育委員 道路とかには設置できないですか。

○濱岡社会教育課長 今のところ考えていません。

○堀江市長 図書館を含む四郎公園整備計画については、9月議会に予算を上程するというので、まだ予算承認が終わってないところもあるんですけど、皆さんもご存知のように、この計画については、署名活動とかもあって、慎重論というか、そういう意見も出ているのも事実です。ただ、我々としては、大矢野地区にある図書館がかなり老朽化して更新時期にきているのも事実でもあるし、規模そのものは、アロマの図書館が5万5千冊の規模なんですけど、新大矢野図書館の規模も6万冊の計画で、規模としてはあまり大きく変わらないので、決して過大な建物だとは思っていません。いわゆる財源の調達が合併特例債というのをどうしても使用しないと、このような計画はできないので、合併特例債が令和5年度発行という非常に日程的にかなり厳しい状況にあります。計画そのものがボリュームとしては大きい事業なので、これまではなかなか決断が出来ずにですね、合併当初に新市まちづくり計画の中で盛り込むくらいで、以前からずっと考えていたんですが、なかなか時間的猶予がないということで、我々としてはこれまでどおり建設したいというふうに考えております。あとは、議員さんにご理解してもらえるように、我々も議論して参りたいと思いますので、よろしくをお願いします。他に、ございますか。

○濱崎教育委員 お願いします。今日の英語教育の推進ということで、学校現場はとても負担がかかっていらっしゃるにもう1つお願いをするのは、とても心苦しいんですが、ぜひ、上天草市の小中学校に論語の素読を入れていただくことを提案させていただきたいと思います。英語教育に力を入れていらっしゃる姿勢は十分理解できましたが、日本語も大切ですので、ぜひ論語教育、論語の素読を入れていただきたいです。県内では宇城市でやっていますが、取組の入り口のところで、論語のかるた大会などをやられています。一番全国で活発にやっているのは、岡山県教育委員で、平成26年度から段階的に論語を学校教育に取り組みられています。なぜ、論語の素読を入れていただきたいか、提案したいかといいますと、人間教育の中で一番基本、基礎基盤になると思いますので、入れていただきたい。論語の素読の効果ということで、長時間記憶に残る、それから、信頼や礼儀、思いやりを自然に学べる、それから、子どもの自信につながる、道徳教育になるということも挙げてありまして、人間教育の一番基本になるのではないかと長年思っておりましたので、今後検討される余地がありましたときには、一度考えていただきたいと思っております。よろしくお願いたします。

○堀江市長 私も論語については、よく存じ上げていないのですが、他の地域では取り組まれている

ところがあるということですね。これにつきましては、教育委員会の中でも情報収集していただきまして、検討いただくということでよろしかったでしょうか。

<「はい」との声あり。>

○堀江市長 他にございませんか。

○辻本教育委員 英語教育の推進についてということで、話が戻りますけどよろしかったでしょうか。私の娘が中学校2年生なんですけど、英語教育の中には書くことがつまずきやすいというか、難しく感じているところがあるかなと思っています。ヒアリングと聞いてその単語が何を意味するのかというところまではいけるんですが、書くことになったら正確なスペルを書く、書いて覚えるという作業が苦手なのかなと。コミュニケーションという意味では、その単語が何を意味するのかということがわかればコミュニケーションできるので、そこの評価をしてあげることも必要なかなということは思いました。それによって、書けないと点数がもらえないとなると子どもたちも、少しハードルが高くなってしまっているのは実感として思います。コミュニケーション的には、発音と聞き取れるかということが重要なかなと思いました。英検3級の話がありましたが、私が高校のときは、高校3年になって初めて3級を受けました。英検3級のレベルというのは、今の中学生のレベルはわからないんですが、ひょっとしたら子どもたちによっては高い水準というか、中学生には難しいのかなあと、4級や5級あたりをしっかりと中学生のときに取得させるようにして、そこで成功体験を作っておいて、高校になってから3級を取得してもいいのかなと思いました。基礎のところから英語の成功体験を子どもたちに経験させてあげることが、意欲を下げないことに必要だと思いました。あとは、先生方も少ない中で教科として取り組むのも大変だと思うんですが、英語を教える先生方に研修を受けるための移動時間も大変なので、リモートによる研修システムを検討いただくとか、ベネッセ・コーポレーションとタイアップによる英語教材等を活用しながら先生方にも取り組んでいただければと思いました。

○堀江市長 ありがとうございます。

○赤瀬学務課長 辻本教育委員のご指摘につきましては、まず、英検については、中学校の1年から3年生で、随時、自分の学力にあったところで5級、4級、3級と選んで、最終的に3年生で3級の取得ということを目指しているところがございます。また、英検の目的なんですけど、英検の取得が目的という話もございましたが、英語に親しむとか楽しむという意識を高めるために取組を始めた経緯がございます。リモートによる研修については、既に各学校においてリモートによる研修は実施されております。あとは、ICTを活用して単語の書き取りとか、キー入力による書く力もつけたいということで、家庭学習の取組みも進めているところがございます。

○堀江市長 他にはございませんでしょうか。では、社会教育課から説明がありましたオリンピック・パラリンピックに出場される選手の横断幕や懸垂幕を設置するということでしたが、テレビ中継がある予定の小幡真子さんが出場される女子バレーについては、今のところ感染防止対策をとり、ある程度の人数制限をしながら実施するというのを考えております。藤田選手についても、テレビ中継があれば集まって応援できればと考えています。また、冒頭申し上げましたが、教職員組合からワクチン接種の優先接種のお願いを私宛に提出がありまして、なんとか滞りなく打てると思っておりますが、今の現状を申しますと、7月中旬までのワクチン接種、ワクチンの供給につ

いては、ある程度ははっきりしてるんですが、それ以降は確定している状況にはなくてですね、このことは、全国的にも問題になってまして、よくニュースで放送されていると思うのですが、他の自治体では、予定していたワクチン接種がキャンセルになって混乱を招いているというようなことがあっています。上天草市においても、状況は同じでございまして、ただ、上天草市の場合は、接種券を年齢で区切って発送したので、今の段階でキャンセルをしないといけないという状況にはなっていません。ただ、6月の末から64歳以下の方々にも順次、接種券を送付していますので、これから接種日等の問合せも増えてくると思うのですが、実際、ワクチン供給の数がはっきりしないと、予約が決められないという問題が出ています。ある程度予約が進めば、教職員の先生とか保育士さんとか、ほかにも色々な業界から優先接種をお願いしたいということで話を受けていますので、そういった方々にも配慮した形でやれるかなと思っていますが、今のところはそういった状況にあるということをご理解ください。ただ、現在、市内の医師の先生方の協力でワクチン接種を行っていただいているんですが、日々予定の変更があって、当初予定されていたワクチン接種ができなくて、ワクチンそのものが余るというケースがあっているんですが、その中で、教職員の先生方を優先接種対象ということで、優先的に声掛けをさせていただくような体制になっています。そのような形で、既にワクチン接種をされた先生方もいらっしゃいますので、業務に差し支えなければ、少しでも早く打てるのかなと思っています。よろしく申し上げます。

○高倉教育長 ありがとうございます。

○堀江市長 他にございませんか。それでは、予定された案件が全て終わりましたので、進行を事務局にお返しします。

○山下教育部長 以上をもちまして、令和3年度第1回上天草市総合教育会議を終了させていただきます。本日は非常に密度の濃いご意見をいただきました。本日の協議内容をお互いに共有し、今後の本市の教育行政の推進に努めて参りたいと思います。本日は誠にありがとうございました。